

秋空を包む熱気ー市内各地で秋祭りー

秋晴れに恵まれた3連休、市内各所で秋祭りが開かれ、勇壮な太鼓の音や担ぎ手の熱い掛け声が響き渡りました。

小坂町の春日神社では、担ぎ手が屋台の重さを肩に感じながら、本殿へ続く坂道を歯を食いしばって担ぎ上げました。懸命な姿に見物客からは声援が送られ、カメラを向ける人の姿も見られました＝写真上。

比延町の住吉神社では、担ぎ手と乗り子が歌を掛け合いながら参道を往復。屋台を頭上高く差し上げると、観客からは大きな歓声が上がりました＝同左下。

黒田庄町岡の兵主神社では、本番に向けて練習に励んできた乗り子たちが、声を枯らしながら力いっぱい歌い、太鼓を打ち鳴らして祭りを盛り上げました＝同右下。〔10月10日～12日〕



神戸三宮で魅力発信

「アフター万博ひょうごレガシーフェスタ」が開催。西脇市からは認定フィールドパビリオン関連の3ブースが出展し、日本酒の試飲や郷土資料館の播州織小物づくり体験には多くの人が訪れました。〔10月3日〕



市民スポーツ大会開幕

市民スポーツ大会開会式が総合市民センターで行われ、優秀選手を表彰しました。選手宣誓では、日頃の練習の成果を発揮し、けがに気を付けながら全力で挑むことを力強く宣言。12月まで15種目の熱戦が続きます。〔10月4日〕



給食に黒田庄和牛

市内の小中学校の給食に黒田庄和牛を使った特別メニューが登場。児童たちはすき焼き風に調理された肉を頬張り、「柔らかくておいしい」とにっこり。地元食材をおなかいっぱい味わいました。〔10月7日／桜丘小学校〕



レントン市から中学生親善使節団

姉妹都市のアメリカ・レントン市から中学生親善使節団一行、13人が西脇市を訪れました。レントン市とは昭和44年に姉妹都市協定を結んで以来、親善使節団を相互に派遣し合うなど交流が続いています。滞在中は着物の着付け体験や市内の中学校で一緒に給食を楽しむなど、日本の文化や暮らしに触れました。〔10月5日～12日〕



自慢の黒田庄和牛の仕上がりを競う

黒田庄和牛の体つきや肉質など日頃の肥育の成果を競う「黒田庄和牛畜産共進会」が開催。市内の畜産農家が出品した10頭^{あしかがふし}を県の職員らが審査し、山崎大地さんの「足利藤」が最優秀賞に輝きました。入賞した黒田庄和牛は、10月25日に開催される県大会へ出品されます。〔9月25日／JAみのり黒田庄ライスセンター〕

